

自由論題 3 東アジアの食料・農業・土地 報告 2

那孫孟和（東北大学大学院博士後期課程）

「ソロン・エヴェンキの牧畜経済活動についての考察」

研究の目的

本論文では、人口激増、経営地の縮小と零細化、牧草資源の減退、労働力不足など牧畜民たちが生業の困難にさらされている状況下で、エヴェンキの人々がどのように生業を営んで、急速な経済発展に適応しているかを考察する。方法として、エヴェンキの牧畜経済の基本要素である家畜、土地、生産技術をそれぞれ取り上げて分析する。筆者は、エヴェンキ地域を訪れ、ソロン・エヴェンキの牧畜経営がどのように行われ、人々は如何なる課題をめぐって活動しているのか、を具体的な経済統計データ収集をしながら実態を調査してきた。ここではエヴェンキの人々は牧畜の困難さに対して用いた技術と牧畜の持続可能性明らかにすることにより、エヴェンキの社会経済的特徴を明らかにすることを試みる。

各節の内容

本論文は、調査ガチャー（村に相当）における牧畜業の経済状況を家畜頭数・構造、放牧地牧草地利用、家畜の飼育技術などの3つの節に分けて考察する。

第一節では、牧畜業を営むこのガチャーの家畜の全体状況について分析する。

第二節は、牧畜生産では欠かせない土地資源の利用の形式とそれぞれの用地の機能を紹介する。牧畜の基本となる草が生産される土地は自然環境に大きく左右される。当地域の降水量は7、8月だけに集中しやすく、近年は早魃になることが多い。そのため牧草がよく育った8月に草刈りをするのが重要な作業である。

第三節、牧畜をしている人とその技術は最も重要な要素であり、これに基づき牧畜生業が成り立っている。冬に白災（雪害）起きると家畜が死に、秋に早魃が起きると牧草が死ぬような残酷な状況で、牧畜民の施設や飼育技術が直接に家計所得に影響している。限れている条件の中で生産性を向上させ、より適した飼育技術を使ったり、柔軟に変更させたり、他者と協力することが重要である。

結論

この3点の分析から得られた知見を次のようにまとめることができる。牧畜の維持が困難である状況下で牧畜民は家畜の比率を市場経済の需要に合わせて自然環境を配慮しながら調整している。伝統的な飼育技術を用いながらも土地を循環利用して空間的調整をしている。個別経営で賄うのが困難な場合親族間で協力し合い牧畜経済を持続させている。このような生業の仕方が現在の中国の北方牧畜経済の基本となっている。